＜様式 6-5 学校教育活動支援事業成果報告書＞

【活動の主題】　音楽～和太鼓でつながる～
【副題】

【学校名】　　滋賀県立北大津養護学校

１　本校の概要

本校は、開校４７年目を迎え、小学部７９名、中学部４８名、高等部７０名計１９７名が在籍しています（２月２０日現在）。現在、児童生徒数の増加に伴う校舎増築工事が行われ、令和９年（2027 年）には、プールが屋上に設置された新校舎が完成する予定です。

本校は、児童生徒一人ひとりの発達・障害・生活に応じた、きめ細かな教育活動を行っています。健康なからだをつくり、あらゆる可能性を伸ばすとともに、仲間と力を合わせて生活を切り拓き、積極的に社会参加していくことをめざしています。また、調和のとれた豊かな人間性や社会性を育むことを大切にしています。

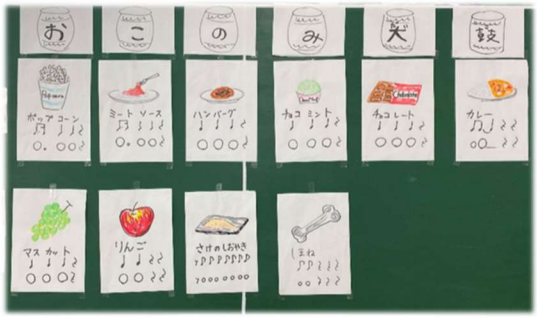
２　取り組んだ内容

（1）おこのみ太鼓

はじめに、好きな食べ物を出し合いました。言葉だけではなく、簡単なイラストを添えてイメージを共有して、それを並べて声に出してみることで、いろいろなリズムが生まれました。

２つのパターンを作り、和太鼓の演奏で用いられる口唱歌の手法で、食べ物の名前を唱えながらたたく太鼓演奏を聴き、どちらのパターンで演奏したいかを選びました。口唱歌を唱えながら太鼓をたたくと、自然とリズミカルで楽しい音が鳴りだし、楽しさを大事にしながら練習をしました。バチの握り方、身体の動かし方なども、少しずつ真似をして、より心地よい音や響きで楽しめるようにしました。

この取組から発展して、地元の大津まつりのお囃子映像を見ながら、思い思いに太鼓演奏を楽しむことにも発展しました。



（2）三宅島木遣太鼓

和太鼓ならではの躍動感や一体感、高揚感を感じて演奏できることを目指して、より本物の太鼓演奏に取り組みました。

教員が締め太鼓で地打ちのリズムを打ちながら、そのリズムの中で、生徒が演奏するリズムを強調して演奏することで、タイミングやリズムがつかみやすくなるようにしました。また、音色や音高の違いが混ざり合って、太鼓の響きに広がりが生まれました。

３　活動の成果

締め太鼓は、いつも使用している和太鼓と違って甲高い音であり、太鼓にも様々な音色があること、また、合図や演奏のリズムをリードする役割があることを知ることもできました。和太鼓と言うと、長胴太鼓をイメージすることが多いですが、締め太鼓を学んだことで、祭りや大相撲、演芸等のいろいろな場面で使われることを知り、多様な伝統音楽への関心も広がりました。

また、違う音色が混じり合い、太鼓の音の響きに広がり生まれ、姿勢や身のこなし、呼吸等を意識することで、演奏が変化していくことがわかり、みんなでよい演奏を目指す意識も高まりました。

終業式や学部集会で発表する機会を設け、仲間と音のつながりを意識しながら一緒に演奏することができました。演奏を聴いた子どもたちも楽しそうに太鼓をたたいたり、躍動感のある演奏に見入ったりするなど、子どもたちの気持ちが一つになった時間を過ごすことができました。

今年度、音楽を通して学部を越えた交流を行いたいと考えていましたが、行事等で調整が難しく、未実施となった為、次年度以降も各学部と連携をとって実施に向け、検討していきたいです。